

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①梶浦昭友編著『生産性向上の理論と実践』中央経済社 (ii+VII+224頁, A5判)</p> <p>最近閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」では、人口減少下における供給制約を克服するためには「生産性革命を実現する規制・制度改革」が必要だと説く。このように生産性の向上が注目を集めるなか、本書では、第I部で生産性向上の基本的な考え方に触れ、生産性に関する理論や歴史的視点からの研究を紹介。例えば、個別企業における生産性の測定は容易ではないし、利益を上げることと付加価値を上げるとは同意ではない。このように「生産性」は用語として多用されるものの、あいまいな点も多く、「古くて新しい課題」であると指摘する。第II部では個別企業における生産性向上への実際の取り組み例を提示する一方、労働組合による関与にも焦点を当てている。</p>	<p>③川崎二郎他著『政治主導で挑む労働の構造改革』日経BP社 (263頁, A5判)</p> <p>自由民主党の労働政策ブレーンが呼びかけて「多様な働き方を支える勉強会」を発足、議論の成果を本書にまとめた。わが国では長年の雇用慣行や諸制度が絡み合い、大きな構造問題になっていると強調。こうした状況を変えるには、政治の力で突破していく必要があると主張する。解決すべき課題として、少子高齢化に伴う労働力の減少、長時間労働、女性労働者の活躍の遅れなどを列挙。これは日本型雇用慣行がもたらす諸問題で、メンバーシップ型雇用を本質とするため、①ワーク・ライフ・バランス②非正規労働者の格差③中高年労働者の処遇——などの問題が生じやすい。内部労働市場の抜本的な改革と同時に外部労働市場の整備が必要だと提唱。</p>
<p>②一守靖著『日本の雇用慣行は変化しているのか』慶應義塾大学出版会 (xi+217頁, A5判)</p> <p>終身雇用や年功賃金などの「日本の雇用慣行」は戦後の日本経済を牽引する成長の柱として機能してきた。しかし、平成に入って以降の長引く不況や少子高齢化など従来の制度を支えてきた前提が崩れたのを受け、転換を迫られている。本書は、こうした変化に直面している日本の雇用慣行の実態と今後を見通すため、企業の人的資源管理を担当する「人事部」に着目し、最近の機能の変化などを分析。人事権の人事部集中を特徴とする日本の雇用慣行は、企業環境の変化に対して調整される周辺の人的資源、管理諸制度の変更に応じてゆるやかに反応する。しかし、人事部とラインの「管轄争い」に変化が生じていないことから、日本の雇用慣行も変化していないと結論づける。</p>	<p>④田中俊之著『男が働かない、いいじゃないか!』講談社 (188頁, 新書判)</p> <p>最近、男性の「生きづらさ」に注目が集まっている。本書は、「男性学」の視点から、男性が働くことの意味を見つめ直すのが狙いだ。男性学とは、男性が男性であるからこそ抱えてしまう悩みや葛藤に着目した学問。日本では、働き過ぎや自殺、結婚難などが男性の抱える典型的な問題だと指摘する。社会に目を向ければ、男性は学校を卒業したら定年退職までフルタイムで働くべきだというルールが存在する。結婚すればさらに一家の大黒柱としての期待が上乗せされる。こうした無意味なこだわりや思い込みが男性の生き方を不自由なものにしており、主に男性と仕事の関係について多面的に論拠を提示。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2016年4—5月労働図書館受け入れ)

- ⑥阿部正浩編著「少子化は止められるか?」有斐閣(174頁, A5判)
- ⑦片桐正俊他編著「格差対応財政の新展開」中央大学出版部(xv+401頁, A5判)
- ⑧沈潔他編著「ポスト改革期の中国社会保障はどうなるのか」ミネルヴァ書房(329頁, A5判)
- ⑨吉原健二他著「日本公的年金制度史」中央法規出版(759頁, A5判)
- ⑩今野晴貴著「君たちはどう働くか」皓星社(175頁, 四六判)
- ⑪細谷実編著「仕事と就活の教養講座」白澤社(253頁, 四六判)
- ⑫野川忍他編「企業変動における労働法の課題」有斐閣(331頁, A5判)
- ⑬小畑史子他著「労働法」有斐閣(262頁, A5判)
- ⑭55プラスライフデザイン室著「55歳からの生き方を見つける!」KADOKAWA(255頁, 四六判)
- ⑮澤宮優著「イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑」原書房(260+8頁, A5判)

### 労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間: 9:30 ~ 17:00  
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659  
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

